

宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第2号

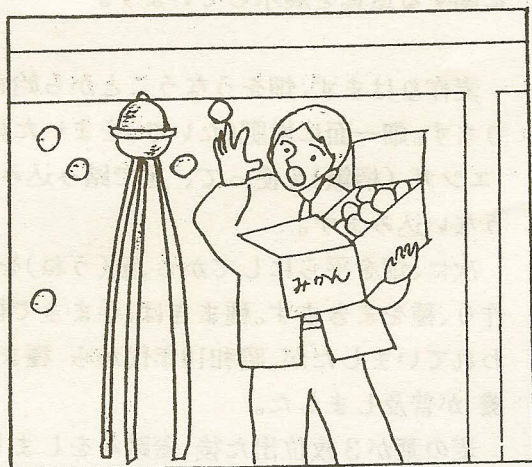
東 五社神社の年越行事 みかん投げ

2月は旧暦の正月です。この月には年越の行事として、2月3日の節分に家々では豆まきをしたり、鰯の頭を豆殻に刺したりして、厄をはらいます。

宮代町内では地区の行事として、年越の行事を行っている所があります。東地区の五社神社では、毎年2月14日夜、「年越」「みかん投げ」などと呼ばれるお祭りが行われ、境内は多くの人々にぎわいます。

この行事は男は42歳、女は33歳の厄年の人がみかんを奉納し、神主に拜んでもらったあとに、境内に集まった人々に、みかんを投げる行事です。奉納されるみかんは毎年50～60箱にもなります。このようにみかんを投げるようになったのは30年くらい前からで、それ以前は豆や落花生を投げたそうです。

みかんを拾う人々は、大きな袋をもって集まります。このみかんを食べると「風邪をひかない」などといわれており、いつもは静かな境内は、競ってみかんを拾う人々のにぎやかな声につつまれます。



ワンポイント展示の案内

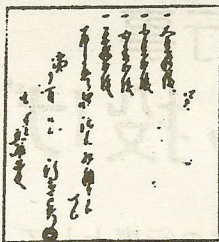
～岩崎家文書にみる～

収穫の後に

秋の収穫では、農家の方々は忙しい日々を過ごされたかと思います。

江戸時代、秋の収穫から年の瀬に向けての期間は、年貢をお上に収める期間でもありました。

今回のワンポイント展示では、『岩崎家文書』のなかから、12月・1月頃に行われた、江戸時代の納税の手続きを追ってみます。



展示資料名

- ◎「午御年貢可納割付之事」
(弘化3年10月)
- ◎「覚(年貢金小手形)」
(末年12月)
- ◎「當丑畑方小前勘定帳」
(文政12年12月)
- ◎「覚(大豆・白麦等請取)」
(文政13年11月)
- ◎「覚(年貢金銭受取)」
(嘉永2年極月15日)

ステージ展示の案内

むかしの道具 麦作り

ステージ展示では、かつて、農作業に使われていた道具を1年間にわたり、季節ごとに展示してきました。

12月からは冬の農作業である「麦作り」に関する道具を展示しています。

麦作りはまず、畑をうなうことから始まります。畑一面に堆肥(たいひ)をまいた後、エンガ(柄鍬)を使って、足で踏み込み、うない込みます。

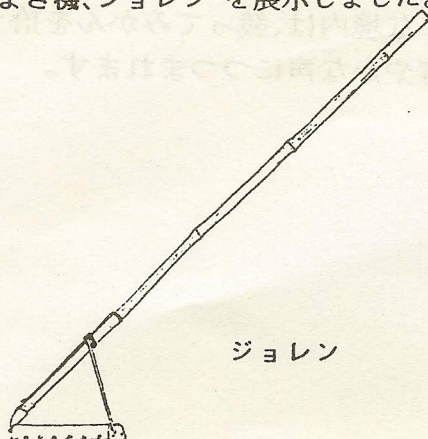
次に、畑を平らにしてから、畝(うね)を作り、種をまきます。種まきは、手まきで行われていましたが、昭和10年代から種まき機が普及しました。

麦の葉が3枚位出た後、麦踏みをしました。そうすることで霜によって浮いてしま

った土が押さえられ、茎が太くなり、収穫も増えるのです。現在、麦作りは機械化されました。しかし、それ以前、凍てつく寒さの中で行われたこれらの作業は、大変な重労働だったそうです。

初夏になると、畑は小麦色に染まり、待ちに待った収穫の時を迎えます。

今回は特に冬場に使用されるエンガ、種まき機、ジョレンを展示しました。



ジョレン

～収蔵資料の紹介～

板 碑 (いたび)

板碑とは、板石塔婆・青石塔婆とも言われ、鎌倉時代から室町時代につくられた供養塔の一種で、追善供養・生前供養（逆修）などとしてたてられたものです。

埼玉県内でみられる板碑は、武蔵型板碑とよばれ、秩父地方で産出する、緑泥片岩を加工したものです。一方、茨城県西部から千葉県でみられる下総型板碑は、砂岩や粘板岩などを用いてつくられています。

宮代町内の板碑は、全て、武蔵型板碑で、計80基余りが、確認されています。最も古いものは、正安3年（1301）6月銘の板碑で、最も新しいものは、享徳2年（1529）7月銘の板碑です。

宮代町内に残る中世の文献は、数点しか存在しません。板碑は、当時の信仰だけでなく、文字資料としても、宮代町の歴史を語るうえで、欠く事ができない貴重な資料です。



これ何だべな？

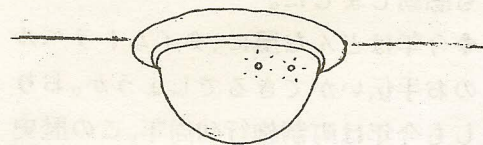
加藤家にある U F O 型物体のなぞ

資料館や加藤家を見学していて、頭の上の方にU F O型をしたなぞの物体があるのに気が付いた人は多いと思います。誰かが動くと、赤と青のランプがチカチカとします。

これは、ループという名前のもので夜の資料館を警備しているものです。

ループは、熱の動きを感じて反応します。資料館の職員が帰宅するときにスイッチをいれると、翌朝にスイッチを切るまでの間、それぞれの部屋の中の状況をループが感じ取っています。そして、異常があると（周囲の温度変化など）反応し、警備会社に知らせます。警備会社のガードマンは、この知らせを受けるとすぐに資料館の方へとんで来て、異常の原因を調べてくれるのです。

このように、万が一何かがあったときには、昼間は資料館の職員が、夜はループとガードマンがすぐに対応できるようになっていて、町民の皆さんの大切な宝物である歴史的資料を守っているのです。



わたしのひとこと

11月1日から27日まで開かれた
「みやしろの円空仏」からひとこと！

「円空仏って素朴で、ほんとうにいいですね」

「宮代町にはたくさんの円空仏が残っているんですね」

「円空仏ってみんな微笑んでいて、ほんとうにやさしいお顔の仏様ですね」

「この仏像を造るのに何日位かかったのかな」

「円空仏って真っ黒なんだね」

「小さな円空仏もあるんですね」

「ちょっと展示がみにくいな」

「うちにも同じようなものがあるよ」

「パンフレットは、やさしく解説してあって読みやすいですね」

これからも、たくさんのご感想、ご意見をお寄せください。

コラム クルミの木ー

◆郷土資料館も新しい年を迎えました。昨年開館1年めで、無我夢中でした。

秋には小学生の皆さんが社会科の体験学習で資料館にいらっしゃいました。実際に、石臼を使って大豆をひきましたが、思ったより重たい石臼の手ごたえや、できたきな粉のいい香りに皆、おどろきの声。「家に帰ったらおばあちゃんに話すんだ」という子もいて、私たちも感動しました。

◆今年はどうな風に、タイムトラベルのお手伝いができるでしょうか。おりしも今年町制施行40周年。この歴史的な年に、みなさんにとって、身近で親しみの持てる郷土資料館をめざして頑張ります。

資料寄贈者名簿

平成6年10月から12月までの3ヶ月の間に民具や古文書等の資料を寄贈していただいた方は下記のとおりです。厚く御礼申し上げます。

ご寄贈いただきました資料は、今後「収蔵品展」等でご紹介させていただきます。

(50音順・敬称略)

青木佐太	民具・古文書
池澤俊哉	民具
岩崎孝一	民具・図書
関根 勲	民具・文書
中村 豊	民具
並木 進	図書
福島 実	民具

今後も、昔を語る様々な資料を収集してまいりますので、ご協力の程、お願い申し上げます。

資料館日誌抄

平成6年

10月16日まで 企画展「みやしろの消防100年」
11月 1日 特別展「みやしろの円空仏」開催(～11月27日)
11月20日 講演会「日光御成道と円空仏」
講師 埼玉県立博物館学芸員 林宏一氏
12月 3日 ワンポイント展示「～岩崎家文書にみる～収穫の後に」
ステージ展示「むかしの道具麦作り」(～1月末)

宮代町郷土資料館だより 第2号

発行年月日 平成7年1月1日

編集発行 宮代町郷土資料館

☎345

埼玉県南埼玉郡宮代町

字西原289番地

☎0480-34-8882